

5. 母語アセスメント

『改訂版 DLA』には、〈はじめの一步〉と〈聞く・話す〉について、ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、ネパール語、ロシア語版が掲載されています。〈はじめの一步〉と〈聞く・話す〉の内容や進行方法は日本語でのアセスメントとほぼ同じです。しかし、〈読む〉を中心に以下の（１）～（５）については違いがあり、準備や工夫が必要になってきます。

ここでは、母語アセスメント実施者を依頼するコーディネーターの視点から、日本語アセスメントとは異なる準備について記載していきます。

5

母語アセスメント

（１）母語アセスメント実施者への依頼と打ち合わせ

学校と直接やり取りをする日本語アセスメント実施者やコーディネーターが、母語でアセスメントできる人材を紹介します。母語アセスメントを実施する人材は、単に母語ができるというだけでなく、多文化多言語の子どものことばの発達について基本的な理解と経験を有し、適切にアセスメントを進め、ことばの力を見取ることが期待されます。学校現場で子どもの教育支援に長く従事している母語話者や、大学・大学院等で子どものことばの発達について学んだ経験のある母語話者などが適切でしょう。

適切な人材がみつかったら、日本語アセスメント実施者またはコーディネーターが、依頼内容を伝えます。母語アセスメントでは、〈読む〉のテキスト選定や、テキストのどの部分を子どもが読み、その後の質問をどうするかなどについて、母語アセスメント実施者に検討しておいてもらう必要があります。実施に向けて丁寧に打ち合わせましょう。

また、母語アセスメント実施者には、アセスメント実施後、引き続いて 30 ～ 40 分、評価に関わる打ち合わせの時間を取ってもらうようにします。

母語アセスメント実施者への依頼内容

- ①すべてオンラインで行われる、1 授業時間での母語アセスメントの実施と、引き続き 30 ～ 40 分の打ち合わせへの参加。
- ②チェックシートの確認と事前ヒアリング動画の視聴。
- ③〈読む〉の母語テキストの選定とアセスメントで使用するための準備。
- ④アセスメント・レポート作成に向けた相談。アセスメント・レポートの確認。必要に応じて、保護者あての文章の母語での作成等。

オンライン、ここがポイント！！

子どもの包括的なことばの力を把握するには、母語アセスメントは大変有効です。ただし、母語アセスメントの実施には、それができる人材の確保が欠かせません。日本語アセスメント実施者やコーディネーターは、日頃から、必要に応じて母語アセスメントができるよう、アセスメントができる母語話者の人材ネットワークを構築していきましょう。そうした人材は、学校現場が求める通訳者としても活躍が期待できます。

(2) 母語テキストの選定

母語アセスメントでは、使用する母語テキストを、あらかじめ母語アセスメント実施者に選んでおいてもらう必要があります。テキストのレベルを判断するにあたっては、事前にアセスメント・チェックシートと事前ヒアリング動画を送り、参考にしてもらいます。

その上で、難易度を変えた数種類のテキストを用意してもらいます。例えば、「対象となる子どもの年齢相当のテキスト」、「年齢より2～3歳程度下のテキスト」、「4～6歳程度下のテキスト」などです。テキストの長さは、いずれも、通常であれば10分程度で読み上げられる長さのものにしましょう。

(3) 母語テキストによる〈読む〉のアセスメント準備

それぞれのテキストについて、途中のどこまでを母語アセスメント実施者が読み、どこから子どもに読んでもらうのかを、あらかじめ検討しておいてもらいます。

また、読んだ後のあらすじ再生についても、ポイントを整理しておいてもらいます。

さらに、テキストの内容をどの程度理解しているのか、「思考・判断・表現を支える包括的なことばの力（複数言語での力）の発達ステージ」（以下、「包括的なことばの発達ステージ」）の記述文を参考にしながら、レベルに応じた質問（例：登場人物の行動の理由、テキストの主題など）を、3～5つ程度考えておいてもらいます。

(4) アセスメント終了後の打ち合わせ

オンライン・アセスメントが終了し、子どもや学校関係者がWeb会議から退室した後、そのまま、母語アセスメント実施者に時間をとってもらい、アセスメント・レポートの作成に向けた情報交換のための打ち合わせを30～40分程度、実施します。

日本語アセスメントについても実施している場合は、日本語アセスメント実施者と母語アセスメント実施者、コーディネーターが参加します。母語アセスメントのみ実施した場合は、母語アセスメント実施者とコーディネーターが参加します。

アセスメント後の打ち合わせにおける確認内容

- ① 〈聞く・話す〉〈読む力〉について、「ことばの力のものさし」を参照して、「思考・判断・表現を支える包括的なことばの力」のステージを判断する。
- ② 「ことばの力のものさし」の記述文を参考に、それぞれの「ことばの力についてのコメント」の欄に記載する文を確認する。
- ③ 「ことばの力を伸ばすために」の欄で、指導にあたって教員や支援員に伝えたい内容、保護者に伝えたい内容について、検討する。

(5) アセスメント・レポートの作成

アセスメント・レポートは、日本語と母語の両方のアセスメントを実施している場合は、日本語アセスメント実施者が中心となって、母語アセスメント実施者から聞き取った内容を踏まえて作成します。母語アセスメントのみ実施の場合は、アセスメント・レポートは、母語アセスメント実施者が作成するか、コーディネーターが母語アセスメント実施者から聞き取った内容を踏まえて作成します。最終的なアセスメント・レポートは、両者で確認した上で、学校に送付しましょう。

保護者が日本語で読むことが難しい場合は、アセスメント・レポートの「保護者の方へ」の欄に、日本語に加えて同じ内容を母語でも記載するとよいでしょう。その部分は、母語アセスメント実施者に依頼しましょう。

